

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1 学則変更（収容定員変更）の内容

下記の学部・学科・専攻において、平成29年度から収容定員増加を行う。

【現行】

学部・学科・専攻		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
家政学部	被服学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>
	児童学科	<u>50</u>	5	<u>210</u>
	ライフデザイン学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>
文学部	日本文学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>
	英文学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>
	コミュニケーション文化学科	<u>100</u>	10	<u>420</u>
比較文化学部	比較文化学科	<u>150</u>	15	<u>630</u>



【平成29年度から】

学部・学科・専攻		入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
家政学部	被服学科	<u>110</u>	10	<u>460</u>
	児童学科	<u>60</u>	5	<u>250</u>
	ライフデザイン学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>
文学部	日本文学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>
	英文学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>
	コミュニケーション文化学科	<u>120</u>	10	<u>500</u>
比較文化学部	比較文化学科	<u>165</u>	15	<u>690</u>

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

今回の収容定員増加を行う学科・専攻においては、過去5年間、資料1「入学志願状況等」のとおり志願者数が入学定員を大きく上回っており、平均志願倍率は低い学科・専攻でも家政学部被服学科の3.93倍、高い学科・専攻では家政学部児童学科児童教育専攻の7.19倍と、高水準となっている。

また、千代田キャンパス（東京都千代田区）では再開発プロジェクトにより施設・設備が充実し、これまで1年次のみ狭山台キャンパス（埼玉県入間市）を履修地としていた家政学部、文学部については平成27年度から、全学年多摩キャンパス（東京都多摩市）を履修地としていた比較文化学部については平成28年度から段階的に、1年次から4年次まで一貫して千代田キャンパスで学ぶことができるようになり、オープンキャンパス等においても頻繁に質問を受けるほど来場者の関心事項であったことから、志願者数の増加が見込まれる。

以上のことから、本学に対する社会の期待に応えるため、上記のとおり収容定員増加を行うこととした。

近年、IT化、グローバル化の進展など、社会・経済が急激に変化しているが、その変化への対応のために、学生自身がそれらを肌で感じられる場所に身を置いて学習することは大切なことである。その点、本学の千代田キャンパスは、日本の首都であり国際都市である東京の中核に立地しており、近隣に官公庁、各国大使館、博物館や美術館などの文化施設が点在し、多くの企業に囲まれ、社会環境としては申し分ないと考える。さらに、それを強みに本学では、キャリア教育センターを設置して、企業等と提携して実際的な企画・開発を体験する課題解決型授業やビジネス界で活躍する人を講師として多数招聘して展開する講座を開講したり、国際センターを設置して、海外の大学・教育研究機関との交流事業や外国語研修講座を行ったり、地域連携推進センターを設置して、社会貢献・連携活動を教育・学習活動の一環と捉え、学生が地域の諸活動に参加する手助けを行ったりするなどして、社会・経済の急激な変化に対応できる人材、言い換えれば「生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最善解を導くことができる」人材を育成すべく、さまざまな施策に取り組んでいる。

なお、併設の大妻女子大学短期大学部では、18歳人口の減少、学部志向に伴う短大離れ等により入学者数が減少していることから、定員充足率を向上させて同短期大学部の健全な運営に資するため、平成25年度から260名、平成27年度から440名の収容定員減少を、それぞれ行っている。その収容定員減少を行った同短期大学部の学科・専攻は、本学の家政学部、文学部、比較文化学部と同系統の分野であり、今回の収容定員増加を行うことにより、学部志向の志願者の受け皿となることも期待している。

3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

本学では、学士課程教育の質的変換に向けて、さまざまな施策に取り組んでいる。教育課程では、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」を明確化し、そのもとで、専門教育科目について平成27年度までに開設科目の精選を行い、体系化を行ったところである。今回の収容定員増加を機に教育課程を変更するといったことは行わないが、教育課程の体系化を行った専門教育科目については、今後も検証を行ってさらなる改善に努めることとし、また、全学共通科目については、特に、英語を中心とした外国語教育の充実を図るべく、開設科目の精選、習熟度別クラス編成、週複数回授業等の検討を進めている。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

〈教育方法〉

学士課程における社会的・職業的自立が求められている時代背景に即して、実社会のニーズであるコミュニケーション能力や主体性などの基礎的能力の育成を図る必要があることから、演習科目や体験型授業を積極的に取り入れている。そして、それらの成果の一例として、前述の課題解決型授業「キャリア・ディベロップメント・プログラム」では、企業や地方自治体と連携したプログラムを実践し、高い評価を得ている。

また、新入生対象の必修科目として「大妻教養講座」を開講し、建学の精神、大学生活の過ごし方等を解説し、学習の動機付けを行っている。

〈履修指導方法〉

ガイダンス、オフィスアワー、クラス担任・副担任制を活用してきめ細やかな履修指導・学習指導を行っている。

また、授業の予習復習、自学自習の学習成果を高めるため、学習支援システム「manaba」

を活用し、授業担当者と学生が自由に双方向のインターネットを利用した学びができる環境を提供している。

今回の収容定員増加を機に教育方法、履修指導方法、学級数等を変更するといったことは行わないが、以上の取り組みを継続して行うことにしており、また、現行の学級数を維持した場合であっても、これまでも結果として、今回の収容定員増加に相当する学生数の中できめ細やかな履修指導・学習指導を行ってきたという実績があり、また、今後は入学定員を超えた入学者を出さないことにしていることから、学習支援体制を維持・向上することができると思う。

(3) 教員組織の変更内容

今回の収容定員増を行った場合の、大学設置基準に定める「学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数」、「大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数」については、現在の専任教員数のままでもすでに基準を上回っていて、また、併設の大妻女子大学短期大学部の収容定員減少に伴い同短期大学部所属であった専任教員を本学所属の専任教員として徐々に異動させるなど、今回の収容定員増加に相当する学生数に対応できる専任教員数を確保しており、きめ細やかな教育が十分可能である。加えて、FD活動や平成25年度から実施している教員評価制度を通じて各教員の意識・能力を高め、また、ティーチング・アシスタント等を積極的に活用するなどして、変更前と同等以上の教育の質を担保するよう努めることにしている。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

前述のとおり、千代田キャンパスでは再開発プロジェクトに取り組んでおり、平成25年には本館E棟、平成26年には本館F棟と別館J棟が完成し、先進的な設備を備えた講義室、実習室等が数多く配置され、学習環境が格段に改善されている。平成27年4月には、千代田キャンパスに近い学生寮である大妻加賀寮（収容定員350名）がリニューアル・オープンし、平成24年に開寮した大妻久我山寮（収容定員200名）と合わせ、より多くの学生が学生寮に入居することができるようになった。

今後も同プロジェクトとしては、平成28年度には、2つのアリーナ、学生のためのアクティブラーニングスペース、講義室、ゼミ室等を備えた地上7階、地下2階のG棟、講義室、ゼミ室のほか情報処理実習室・自習室、研究室等を備えた地上8階、地下2階のH棟が完成する予定である。

これらのことから、家政学部、文学部、比較文化学部では、前述のとおり1年次から4年次までの履修地を一貫して千代田キャンパスとし、さらに、今回の収容定員増加を行っても十分なだけの施設・設備を備えるに至っている。

資料1

入学志願状況等

学部等名	項目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
家政学部 被服学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	400	363	358	381	464
	受験者数	387	349	337	359	425
	合格者数	147	171	166	182	181
	入学者数	112	123	110	110	112
	志願倍率	4.00	3.63	3.58	3.81	4.64
	入学定員超過率	1.12	1.23	1.10	1.10	1.12
児童学科 児童教育専攻	入学定員	50	50	50	50	50
	志願者数	375	271	330	445	376
	受験者数	370	250	314	426	363
	合格者数	119	98	111	129	99
	入学者数	63	61	63	61	59
	志願倍率	7.50	5.42	6.60	8.90	7.52
	入学定員超過率	1.26	1.22	1.26	1.22	1.18
ライフデザイン学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	265	381	393	286	687
	受験者数	250	365	381	271	653
	合格者数	185	212	173	213	210
	入学者数	127	135	121	120	121
	志願倍率	2.65	3.81	3.93	2.86	6.87
	入学定員超過率	1.27	1.35	1.21	1.20	1.21
文学部 日本文学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	468	394	387	465	730
	受験者数	449	380	371	446	699
	合格者数	211	217	272	271	282
	入学者数	127	121	135	116	125
	志願倍率	4.68	3.94	3.87	4.65	7.30
	入学定員超過率	1.27	1.21	1.35	1.16	1.25
英文学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	679	469	714	657	678
	受験者数	660	447	696	628	642
	合格者数	351	333	295	298	252
	入学者数	119	127	126	124	118
	志願倍率	6.79	4.69	7.14	6.57	6.78
	入学定員超過率	1.19	1.27	1.26	1.24	1.18
コミュニケーション文化学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	355	435	377	585	588
	受験者数	347	432	366	568	569
	合格者数	189	187	206	209	241
	入学者数	120	120	120	124	131
	志願倍率	3.55	4.35	3.77	5.85	5.88
	入学定員超過率	1.20	1.20	1.20	1.24	1.31
比較文化学部 比較文化学科	入学定員	150	150	150	150	150
	志願者数	718	534	601	586	672
	受験者数	694	509	578	557	647
	合格者数	420	427	461	447	441
	入学者数	178	174	175	179	181
	志願倍率	4.78	3.56	4.00	3.90	4.48
	入学定員超過率	1.18	1.16	1.16	1.19	1.20